

9) 機械土工（河床等掘削）

1. 適用範囲

本資料は、河川工事における以下の機械土工を、超ロングアームバックホウにより施工する場合に適用する。ただし、下記以外の一般土工には適用しない。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 河床等掘削（施工パッケージ）

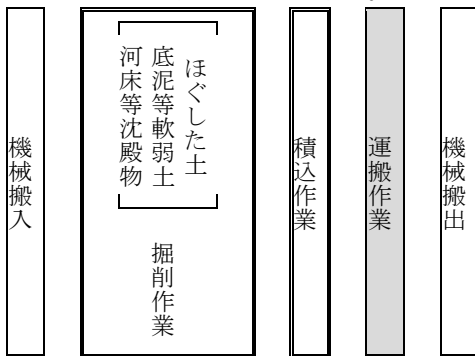
- (1) 川や水路及び河川等の河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去するような軽量作業及び道路、河川工事におけるほぐした土の掘削積込作業
- (2) 最大掘削深さが 11.7m 以下の場合

1-1-2 ダンプトラック運搬（歩掛）

- (1) 川や水路及び河川等の河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去した後の運搬作業

2. 施工概要（施工フロー）

施工フローは下記のとおりとする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
 2. 本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 河床等掘削【SPK13040023】

(1) 条件区分

河床等掘削における積算条件区分はない。

積算単位は m³ とする。

(注) 河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去するような軽量作業及び道路、河川工事におけるほぐした土の掘削、積込等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.1 河床等掘削 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・超ロングアーム]排出ガス対策型(第1次基準値)山積 0.4m ³	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	特殊運転手	
	R2	-	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

4. 機種を選定

機械・規格は次表を標準とする。

表 4.1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
運搬	ダンプトラック	10t 積級	〃	1	必要に応じて計上する。

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

5. 機械の施工歩掛

(1) ダンプトラックの運搬日数

ダンプトラック (10t 積級) による, 土砂 100m³ 当りの運搬日数は, 次表による。

表 5.1 100m³ 当り運搬日数

積込機種・規格	表 3.1 で想定する掘削機械						
運搬機種・規格	ダンプトラック 10t 積級						
DID 区間:無し							
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.8 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下	6.5 以下	9.0 以下
運搬日数 (日)	1.6	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7	3.2
運搬距離 (km)	13.0 以下	19.5 以下	40.0 以下	60.0 以下			
運搬日数 (日)	3.8	4.7	6.3	9.5			
DID 区間:有り							
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.8 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.5 以下	8.5 以下
運搬日数 (日)	1.6	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7	3.2
運搬距離 (km)	12.0 以下	17.5 以下	30.0 以下	50.0 以下	60.0 以下		
運搬日数 (日)	3.8	4.7	6.3	9.5	18.9		

6. 単価表

(1) ダンプトラック運搬 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	10t 積級	日		表 5.1 必要に応じて計上
諸雑費		式	1	
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	10t 積級	機-22	運転労務量 →1.00 機械損料数量 →1.29 燃料消費量 →76

10) 多自然護岸工

10)-1 巨石積（張）工

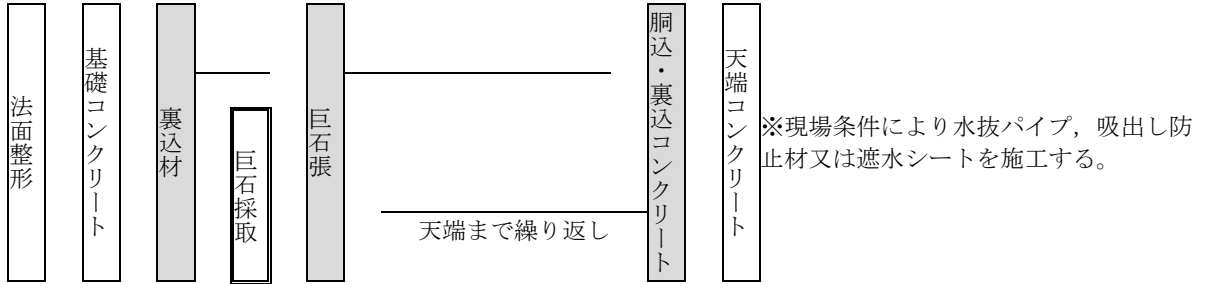
1. 適用範囲

本資料は、河川における多自然護岸工事の施工で巨石張工（練・空）、巨石積工（練）について適用する。なお、巨石張工は、法勾配 1：1 以上、径 40cm 以上～100cm 以下とし、巨石積工は、法勾配 1：1 未満、径 40cm 以上～100cm 以下とする。

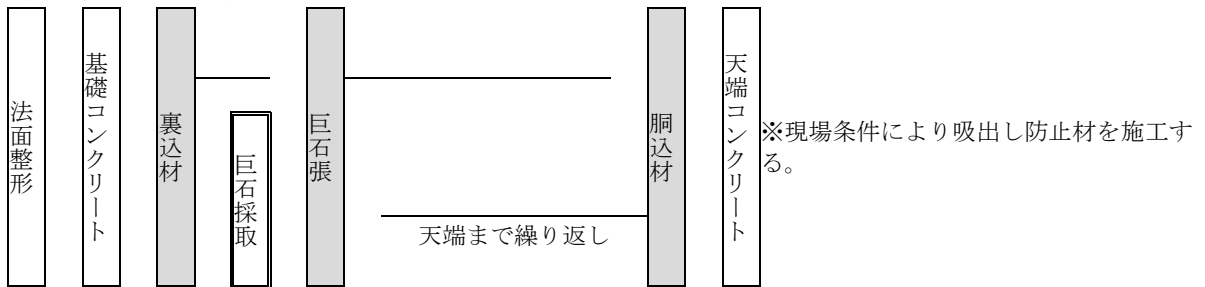
2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

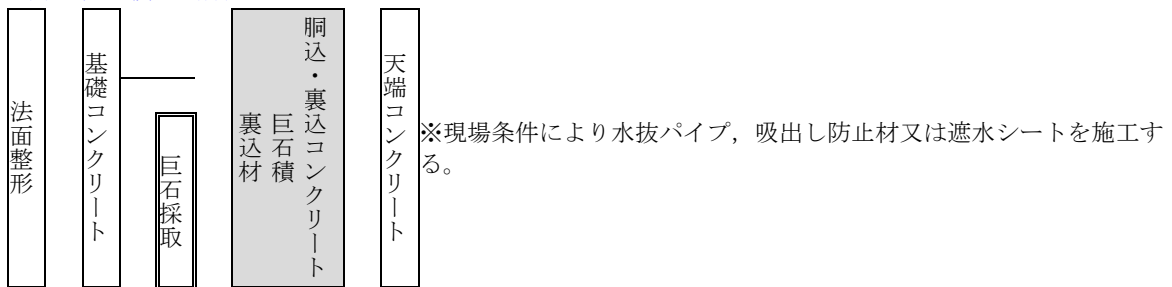
(1) 巨石張工（練）



(2) 巨石張工（空）



(3) 巨石積工（練）



※上記作業の手順は、現場による

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- 2. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 巨石採取【SPK13040034】

3-1-1 適用範囲

本施工パッケージは、多自然護岸工事において巨石材（径 40cm 以上～100cm 以下）を機械により現地採取する場合に適用する。

3-1-2 条件区分

巨石採取の条件区分はない。
積算単位は個とする。

- (注) 1. 巨石採取は、多自然護岸工事における巨石材（径 40cm 以上～100cm 以下）の掘削、採取、積込み、洗浄、選別、現場内小運搬の他、掘み装置、高圧洗浄機、電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 機械による破砕作業や火薬類による発破作業が必要な場合は、別途計上する。
3. 採取による 20m 程度の現場内小運搬を含むが、施工現場まで距離がある場合（20m 超）の運搬費は、別途計上する。

3-1-3 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	特殊運転手	
	R2	土木一般世話役	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

4. 施工歩掛

4-1 巨石張工（練）

巨石張工（練）総合歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 巨石張工（練）総合歩掛

(10m² 当り)

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 60cm 未満	径 60cm 以上 80cm 未満	径 80cm 以上 100cm 以下
世話役		人	0.58	0.53	0.48
特殊作業員		〃	1.01	1.02	1.02
普通作業員		〃	1.15(1.33)	1.16(1.34)	1.16(1.34)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.42	0.38	0.35
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	1.19	1.19	1.19
諸雑費率		%	11(10) 3(3)	11(10) 3(3)	11(10) 3(3)

(注) 1. 上表は、巨石張工（練）、裏込材工、胴込・裏込コンクリート工の歩掛であり、更に吸出し防止材又は遮水・止水シートを施工する場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。

2. 諸雑費は、型枠、コンクリートバケット損料、バイブレータ損料、つき固め機械損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。また、水抜きパイプを設置した場合は上段の値、設置しない場合は下段の値とし、上段には水抜パイプ設置に係る労務費、材料費を含む。

3. ラフテレーンクレーンは、石材、胴込・裏込コンクリート等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。

なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. バックホウは、裏込材の投入作業等に使用する機械である。

5. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。

6. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。

7. かみ合せによる石の加工を含む。

8. 現場条件により裏込材工を行わない場合は、別途計上とする。

4-2 巨石張工（空）

巨石張工（空）総合歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 巨石張工（空）総合歩掛

（10m² 当り）

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 60cm 未満	径 60cm 以上 80cm 未満	径 80cm 以上 100cm 以下
世話役		人	0.58	0.53	0.48
特殊作業員		〃	0.58	0.53	0.48
普通作業員		〃	0.98(1.15)	1.04(1.21)	1.08(1.26)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 （第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.30	0.27	0.24
バックホウ運転	排出ガス対策型 （第1次基準値） クローラ型山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	h	1.79	2.06	2.30
諸雑費率		%	1(1)	1(1)	1(1)

- （注）1. 上表は、巨石張工（空）、裏込材工、胴込材工の歩掛であり、更に吸出し防止材を施工する場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。
2. 諸雑費は、つき固め機械損料の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. ラフテレーンクレーンは、石材等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。
なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. バックホウは、裏込材・胴込材の投入作業等に使用する機械である。
5. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。
6. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。
7. かみ合せによる石の加工を含む。
8. 現場条件により裏込材工を行わない場合は、別途計上とする。

4-3 巨石積工（練）

巨石積工（練）総合歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 巨石積工（練）総合歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 60cm 未満	径 60cm 以上 80cm 未満	径 80cm 以上 100cm 以下
世話役		人	0.83	0.75	0.68
特殊作業員		〃	1.30	1.35	1.39
普通作業員		〃	1.77(1.94)	1.81(1.99)	1.85(2.03)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.60	0.55	0.49
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	h	2.38	2.38	2.38
諸雑費率		%	8(8) 3(3)	8(8) 3(3)	8(8) 3(3)

(注) 1. 上表は、巨石積工（練）、裏込材工、胴込・裏込コンクリート工の歩掛であり、更に吸出し防止材又は遮水・止水シートを施工する場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。

2. 諸雑費は、型枠、コンクリートバケット損料、パイプレータ損料、つき固め機械損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。また、水抜きパイプを設置した場合は上段の値、設置しない場合は下段の値とし、上段には水抜きパイプ設置に係る労務費、材料費を含む。

3. ラフテレーンクレーンは、石材、胴込・裏込コンクリート等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。

なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. バックホウは、裏込材の投入作業等に使用する機械である。

5. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。

6. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。

7. かみ合せによる石の加工を含む。

8. 現場条件により裏込材工を行わない場合は、別途計上とする。

4-4 胴込・裏込材、吸出防止材の使用量

胴込・裏込材及び吸出防止材の使用量は次式による。

$$\text{使用数量} = \text{設計数量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^2 \text{ 又は } \text{m}^3)$$

K: ロス率

表 4.4.4 胴込・裏込材、吸出防止材のロス率

材料の種類	クラッシュラン 雑割石、割栗石	胴込コンクリート 裏込コンクリート	吸出防止材 遮水・止水シート
ロス率	+0.20	+0.13	+0.09

※玉石については、補正を行わない。

4-5 基礎コンクリート工

基礎コンクリート工は、「第III編第2章11)護岸基礎ブロック据付工」又は「第II編第4章1)コンクリート工」及び「第II編第4章2)-1型枠工」により別途計上する。

4-6 天端コンクリート工

天端コンクリート工は、「第Ⅱ編第4章1)コンクリート工」及び「第Ⅱ編第4章2)-1型枠工」により別途計上する。

4-7 巨石積（張）工（裏込材工を除く）

4-7-1 適用範囲

巨石積（張）工にて、現場条件により裏込材工を施工しない場合に適用する。

4-7-2 施工歩掛

(1) 巨石張工（裏込材工を除く）（練）

巨石張工（裏込材工を除く）（練）の標準歩掛は、次表を標準とする。

表 4.5 巨石張工（裏込材工を除く）（練）総合歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 ～60cm 未満	径 60cm 以上 ～80cm 未満	径 80cm 以上 ～100cm 以下
世話役		人	0.58	0.53	0.48
特殊作業員		〃	1.01	1.02	1.02
普通作業員		〃	1.01(1.18)	1.02(1.19)	1.02(1.19)
ラフテレーンク レーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.42	0.38	0.35
諸雑費率		%	11(11) 3(3)	11(11) 3(3)	12(11) 3(3)

- (注) 1. 上表は、巨石張工（練）、胴込・裏込コンクリート工の歩掛であり、更に吸出し防止材又は遮水・止水シートを施工した場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。
2. 諸雑費は、型枠、コンクリートバケット損料、パイプレータ損料、つき固め機械損料の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。また、水抜パイプを設置した場合は上段の値、設置しない場合は下段の値とし、上段には水抜パイプ設置に係る労務費、材料費を含む。
3. ラフテレーンクレーンは、石材、胴込・裏込コンクリート等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。
なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。
5. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。
6. かみ合せによる石の加工を含む。

(2) 巨石張工（裏込材工を除く）（空）

巨石張工（裏込材工を除く）（空）の標準歩掛は、次表を標準とする。

表 4.6 巨石張工（裏込材工を除く）（空）総合歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 ～60cm 未満	径 60cm 以上 ～80cm 未満	径 80cm 以上 ～100cm 以下
世話役		人	0.58	0.53	0.48
特殊作業員		〃	0.58	0.53	0.48
普通作業員		〃	0.83(1.01)	0.89(1.07)	0.94(1.10)
ラフテレーンク レーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.30	0.27	0.24
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	h	0.60	0.87	1.11
諸雑費率		%	1(1)	1(1)	1(1)

- (注) 1. 上表は、巨石張工（空）、胴込材工の歩掛であり、更に吸出し防止材を施工する場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。
2. 諸雑費は、つき固め機械損料の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. ラフテレーンクレーンは、石材等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。
なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. バックホウは、胴込材の投入作業等に使用する機械である。
5. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。
6. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。
7. かみ合せによる石の加工を含む。

(3) 巨石積工（裏込材工を除く）（練）

巨石積工（裏込材工を除く）（練）の標準歩掛は、次表を標準とする。

表 4.7 巨石積工（裏込材工を除く）（練）総合歩掛 (10m² 当り)

名称	規格	単位	数量		
			径 40cm 以上 ～60cm 未満	径 60cm 以上 ～80cm 未満	径 80cm 以上 ～100cm 以下
世話役		人	0.83	0.75	0.68
特殊作業員		〃	1.30	1.35	1.39
普通作業員		〃	1.30(1.47)	1.35(1.52)	1.39(1.56)
ラフテレーンク レーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.60	0.55	0.49
諸雑费率		%	9(9) 3(3)	9(9) 3(3)	9(9) 3(3)

- (注) 1. 上表は、巨石積工（練）、胴込・裏込コンクリート工の歩掛であり、更に吸出し防止材又は遮水・止水シートを施工する場合は、（ ）の値とする。径とは、最大径と最小径の平均値とする。
2. 諸雑費は、型枠、コンクリートバケット損料、パイプレータ損料、つき固め機械損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。また、水抜パイプを設置した場合は上段の値、設置しない場合は下段の値とし、上段には水抜きパイプ設置に係る労務費、材料費を含む。
3. ラフテレーンクレーンは、石材、胴込・裏込コンクリート等の吊上げ、吊下げ作業に使用する機械であり、賃料とする。
- なお、現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. 運搬距離 20m 程度の現場内小運搬を含む。
5. 石材を現地採取する場合は、採取費、運搬費を別途計上する。
6. かみ合せによる石の加工を含む。

5. 基本数量の算出基準

石材及び胴込・裏込材の基本数量の算出

図 5-1 石材 1 個当り占有面積

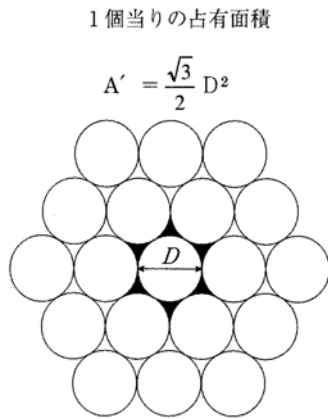


図 5-2 胴込材数量の算定

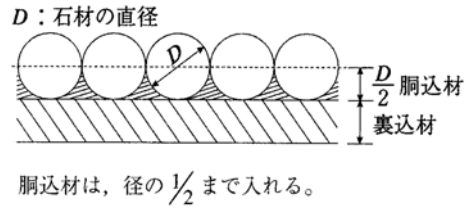


表 5.1 石材の基本数量

径(m)	体積(m ³ /個)	面積(m ² /個)	占有面積(m ² /個)	10m ² 当り基本数量(個)
D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2} / 2) D^2$	$N = 10 / A'$

表 5.2 裏込・胴込材の基本数量

工種	裏込材		胴込材	
	種類	10m ² 当り基本数量(m ³)	種類	10m ² 当り基本数量(m ³)
空石張	砕石等	施工厚(m) × 10(m ²)	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10m^2) - (V \times N)] / 2$
練石張及び練石積	砕石等及びコンクリート	施工厚(m) × 10(m ²)	コンクリート	$[(D \times 10m^2) - (V \times N)] / 2$

6. 単価表

(1) 巨石張工(練) 10m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m ²	10	
裏込材		m ³		表 4.4 必要量 × (1 + ロス率)
胴込・裏込コンクリート		〃		〃
吸出防止材又は遮水・止水シート		m ²		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.1
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

※裏込材とは、裏込砕石(クラッシュラン、雑割石等)とする。

(2) 巨石張工 (空) 10m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m ²	10	
裏込材		m ³		表 4. 4 必要量 × (1 + ロス率)
胴込材		〃		〃
吸出防止材		m ²		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4. 2
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0. 8m ³ (平積 0. 6m ³)	h		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

※裏込材とは、裏込砕石 (クラッシュラン、雑割石等)、胴込材とは、胴込砕石 (玉石割栗石、雑割石等) とする。

(3) 巨石積工 (練) 10m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 3
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m ²	10	
裏込材		m ³		表 3. 4 必要量 × (1 + ロス率)
胴込・裏込コンクリート		〃		〃
吸出防止材又は 遮水・止水シート		m ²		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 3. 3
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0. 8m ³ (平積 0. 6m ³)	h		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

※裏込材とは、裏込砕石 (クラッシュラン、雑割石等) とする。

(4) 巨石張工（裏込材工を除く）（練）10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.5
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m2	10	
胴込・裏込コンクリート		m3		表 4.4 必要量×(1+ロス率)
吸出防止材又は遮水・止水シート		m2		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.7
諸雑費		式	1	〃
計				

(5) 巨石張工（裏込材工を除く）（空）10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.6
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m2	10	
胴込材		m3		表 4.4 必要量×(1+ロス率)
吸出防止材		m2		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.6
バックホウ運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m3（平積 0.6m3）	h		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

※胴込材とは、胴込砕石（玉石、割栗石、雑割石等）とする。

(6) 巨石積工（裏込材工を除く）（練）10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.7
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
石材		m2	10	
胴込・裏込コンクリート		m3		表 4.4 必要量×(1+ロス率)
吸出防止材又は遮水・止水シート		m2		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.7
諸雑費		式	1	〃
計				

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m3（平積 0.6m3）	機-1	

10)-2 木杭打工

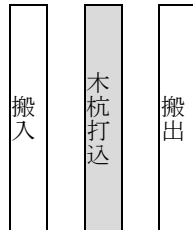
1. 適用範囲

本資料は、多自然護岸工の施工で杭長 3.5m 以下の木杭の打込みに適用する。

2. 施工概要

本工法は、護岸等で木杭を大型ブレーカ（バックホウ装着式）により打込むものである。

なお、施工フローは下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	単位	数量
大型ブレーカ	油圧式 600～800kg	台	1

(注) 大型ブレーカのベースマシンは、バックホウ排出ガス対策型（第 1 次基準値）クローラ型山積 0.45m³（平積 0.35m³）とする。

4. 施工歩掛

木杭打作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り編成人員（人）

世話役	普通作業員
1	2

5. 日当り施工量

木杭打工の日当り施工量は次表を標準とする。

表 5.1 日当り施工量（1日当り）

日当り施工量	単位	数量
木杭打込	本	58

6. 諸雑費

諸雑費は、ブレーカの先に付ける木杭打込用のキャップの費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 6.1 諸雑費率（％）

諸雑費率	2
------	---

7. 単価表

(1) 木杭打工 100 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表 4.1, 表 5.1
普通作業員		〃	2×100/D	〃
木杭		本	100	
大型ブレーカ運転	油圧式 600～800kg	日	1×100/D	表 3.1, 表 5.1
諸雑費		式	1	表 6.1
計				

(注) D：日当り施工量

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大型ブレーカ (バックホウ装着)	油圧式 600～800kg	機-20	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →62 機械損料数量 1 →1.39 バックホウ (排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ 型山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)) 機械損料数量 2 →1.39 大型ブレーカ (油圧式 600～800kg)

10)-3 柳枝工，玉石階段工

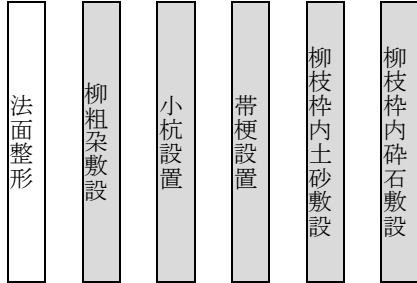
1. 適用範囲

本資料は，河川における多自然護岸工の柳枝工（法勾配 1：1 以上），玉石階段工（石径 25cm 内外）について適用する。

2. 施工概要

標準施工フローは，下記を標準とする。

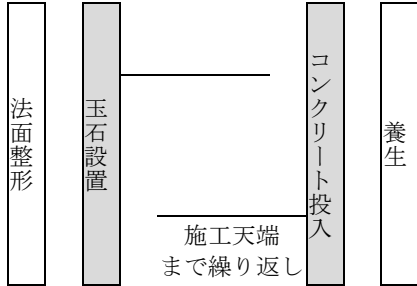
(1) 柳枝工



(注) 本歩掛で対応しているのは，着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー（柳枝工）

(2) 玉石階段工



(注) 本歩掛で対応しているのは，着色部分のみである。

図 2-2 施工フロー（玉石階段工）

3. 機種を選定

機械・規格は次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

工種	機種	単位	数量	摘要
玉石階段工	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 16t 吊	台	1	作業範囲は高さ 18m 以下，水平距離 10m 以下とする。

4. 材料使用量及び補正係数

柳枝工の枠内詰材料の使用量は，次式による。

使用量 = 基本数量 (m³/10m²) × (1+K) … [式 4.1]

K：ロス率

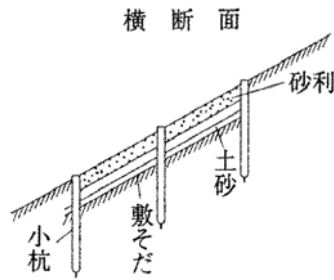
表 4.1 柳枝工の枠内詰材料

枠内詰材料	10m ² 当り基本数量
土砂	施工厚 (m) × 10 (m ²)
碎石	施工厚 (m) × 10 (m ²)

表 4.2 ロス率 (K)

材料の種類	碎石	土砂
補正係数	+0.20	+0.30

図 4-1 柳枝工



5. 施工歩掛

(1) 柳枝工の施工歩掛は次表を標準とする。

表 5.1 柳枝工施工歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	数量
普通作業員		人	2.7
柳粗朶	長 1.2m, 周 0.9m	束	9.0
帯梗	長 3.0m, 径 3cm	〃	3.0
小杭	長 1.2m, 径 4cm 内外	本	30
土砂	厚 6cm	m3	0.78
碎石	厚 6cm	〃	0.72
諸雑費		式	1

- (注) 1. 普通作業員には、土砂及び碎石投入を含む。
 2. 各使用材料の数量は、材料補正を含む。
 3. 人力による使用材料の現場内小運搬（距離 20m 程度）を含む。

(2) 玉石階段工の施工歩掛は次表を標準とする。

表 5.2 玉石階段工施工歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.2
石工		〃	0.6
特殊作業員		〃	0.3
普通作業員		〃	3.32
玉石	25cm 内外	個	204
コンクリート		m3	2.35
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	h	3.0
諸雑費		式	1

- (注) 1. 石材（玉石）を現地採取とする場合は、採取費、運搬費を別途計上することが出来る。
 2. 諸雑費は、労務費に 2% を乗じた金額を上限として計上する。
 3. 玉石階段工の施工数量は水平投影面積で計上する。
 4. 普通作業員には、コンクリート投入歩掛を含む。
 5. 各使用材料の数量は、材料補正を含む。
 6. 人力による使用材料の現場内小運搬（距離 20m 程度）を含む。

6. 単価表

(1) 柳枝工 10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 5.1
柳粗朶	長 1.2m, 周 0.9m	束		〃
帯梗	長 3.0m, 径 3cm	〃		〃
小杭	長 1.2m, 径 4cm 内外	本		〃
土砂	厚 6cm	m3		式 4.1, 表 5.1
切込碎石	厚 6cm	〃		〃, 〃
諸雑費		式	1	表 5.1
計				

(2) 玉石階段工 10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5.2
石工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
玉石	25cm	個		〃
コンクリート		m3		〃
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	h		表 3.1, 表 5.2
諸雑費		式	1	表 5.2
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	機-1	

10)-4 巨石据付工

1. 適用範囲

本資料は、河川における多自然型護岸工事の施工で、巨石（0.5～1.5m）を据付（水平置）ける場合に適用する。

2. 機種を選定

表 2.1 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	

3. 施工歩掛

(1) 巨石据付歩掛

巨石据付歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 巨石据付歩掛 (10m2 当り)

名称	規格	単位	据付
世話役		人	0.24
石工		〃	0.30
普通作業員		〃	0.56
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.20

(注) ラフテレーンクレーン（排出ガス対策型（第1次基準値））は賃料とする。なお、現場条件等により 25t 吊で施工が不可能な場合は、別途選定することが出来る。

(2) 材料使用量

巨石の使用数量は、次式による。

$$\text{巨石の使用数量 (個)} = 10 \div (\sqrt{3/2} \times [\text{巨石径 m}]^2) \dots\dots [\text{式 3.1}]$$

4. 単価表

(1) 巨石据付 10m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.24	表 3.1
石工		〃	0.30	〃
普通作業員		〃	0.56	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.20	〃
巨石	径 0.5～1.5m	個		式 3.1
諸雑費		式	1	
計				

11) 護岸基礎ブロック工

11)-1 護岸基礎ブロック工(1)

1. 適用範囲

本資料は、護岸工のプレキャスト基礎ブロック（ブロック長 2m, 3.3m, 5m）のうち、表 1.1 以外のものに適用する。

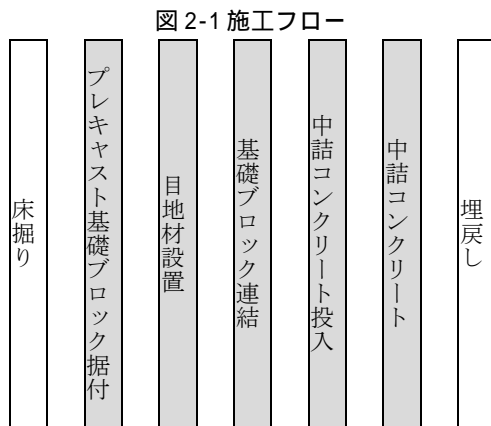
なお、表 1.1 の護岸基礎ブロックは、護岸基礎ブロック工(2)を適用する。

表 1.1 護岸基礎ブロック工(2)の適用範囲

- ・中詰作業を行わないもの。（ただし、連結部分にだけ中詰作業を行うものは含む）
- ・中詰材料にコンクリート以外のものを使ったもの。
- ・目地材の施工がされていないもの。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 機種の選定

護岸基礎ブロック据付及び中詰コンクリート打設に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第 1 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. 現場条件により、上表より難しい場合は、別途機械・規格を考慮する。

4. 護岸基礎ブロック据付工

4-1 護岸基礎ブロック工歩掛

護岸基礎ブロック工の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 護岸基礎ブロック総合歩掛 (10m 当り)

ブロック製品長 (mm)			2,000					3,300					5,000						
ブロック下幅 (mm)			500 以上 600 未満	600 以上 700 未満	700 以上 900 未満	900 以上 1,100 未満	1,100 以上	500 以上 600 未満	600 以上 700 未満	700 以上 900 未満	900 以上 1,100 未満	1,100 以上	500 以上 600 未満	600 以上 700 未満	700 以上 900 未満	900 以上 1,100 未満	1,100 以上		
名称	規格	単位																	
世話役		人	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4		
特殊作業員		//	0.4	0.4	0.5	0.6	0.7	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6		
普通作業員		//	0.4	0.5	0.7	0.9	1.1	0.3	0.4	0.6	0.9	1.0	0.3	0.4	0.6	0.8	0.9		
ラフテレーン クレーン運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.4	0.4	0.6	0.7	0.8	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.2	0.3	0.4	0.6	0.6		
諸雑費率		%	2 (5)	5 (12)	8 (19)	11 (25)	12 (27)	3 (6)	6 (14)	9 (22)	12 (28)	14 (31)	4 (8)	7 (16)	10 (24)	13 (30)	14 (32)		

- (注) 1. 上表の労務歩掛は、ブロックの据付け、連結、目地材設置、中詰コンクリート打設、養生を含むものである。
 2. 中詰コンクリート工はクレーン車打設とする。
 3. 諸雑費は、目地の材料費、パイプレータ、コンクリートバケット損料、電力に関する経費及び養生に要する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度のものであり、特殊養生を必要とする場合は練炭養生とし、() 内の率を使用する。
 5. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

4-2 材料使用量

レディーミクストコンクリートの使用量は、次式による。

使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1+K) …式 4.1

K: ロス率

表 4.2 ロス率 (K)

材料	ロス率
レディーミクストコンクリート	+0.05

5. 単価表

(1) 護岸基礎ブロック工 (総合) 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.1
特殊作業員		//		//
普通作業員		//		//
コンクリート		m3		式 4.1
護岸基礎ブロック		個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.1
諸雑費		式	1	//
計				

11)-2 護岸基礎ブロック工 (2)

1. 適用範囲

本歩掛は、護岸基礎ブロック工 (1) の適用範囲を外れた護岸工のプレキャスト基礎ブロック (ブロック長 2m, 3.3m, 4m, 5m) の施工に適用する。

2. 機種の選定

護岸基礎ブロック据付及び中詰コンクリート打設に使用する機械・規格は、護岸基礎ブロック工 (1) 3. による。

3. 護岸基礎ブロック据付工

3-1 日当り施工量

護岸基礎ブロック据付作業における日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.1 ブロック据付の日当り施工量

ブロック製品長 (mm)	単位	施工量
2,000mm	m	30 (32)
3,300mm	〃	38
4,000mm	〃	42
5,000mm	〃	48

(注) 1. 上表にはブロックの連結、目地材の設置等を含み、中詰材の投入は含まない。

2. ブロック製品長 2,000mm で、中詰材投入の必要がないブロックについては () 内の数値を使用する。

3-2 編成人員

護岸基礎ブロック据付作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 3.2 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	1

3-3 諸雑費

諸雑費は、目地材の材料費であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.3 諸雑費率

(%)

ブロック製品長 (mm)	2,000	3,300	4,000	5,000
諸雑費率	2			3

(注) 目地を使用しない場合は、諸雑費を計上しない。

4. 中詰コンクリート工

4-1 施工歩掛

中詰コンクリートクレーン車打設及び養生の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 中詰コンクリート工 (10m3 当り)

名称	単位	数量
世話役	人	0.28
特殊作業員	〃	0.45
普通作業員	〃	0.94
ラフテレーンクレーン運転	日	0.58
諸雑費率	%	19(47)

- (注) 1. コンクリートバケット容量は 0.6m3 を標準とする。
 2. 諸雑費は労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 3. 諸雑費は、パイブレータ、コンクリートバケット損料、電力に関する経費及び養生に要する費用である。
 4. 養生は、養生材の被覆、散水養生の被膜養生程度のものであり、特殊養生を必要とする場合は練炭養生とし、() 内の率を使用する。
 5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4-2 材料使用量

レディーミクストコンクリートの使用量は、次式による。

使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1+K) ……式 4.1

K : ロス率

表 4.2 ロス率 (K)

材料	ロス率
レディーミクストコンクリート	+0.05

5. 単価表

(1) 護岸基礎ブロック据付工 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0×100/D	表 3.1, 表 3.2
特殊作業員		〃	1.0×100/D	〃, 〃
普通作業員		〃	1.0×100/D	〃, 〃
護岸基礎ブロック		個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1.0×100/D	表 3.1
諸雑費		式	1	表 3.3
計				

(注) D : 日当り施工量

(2) 中詰コンクリート工 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m3		表 4.1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.1
諸雑費		式	1	〃
計				

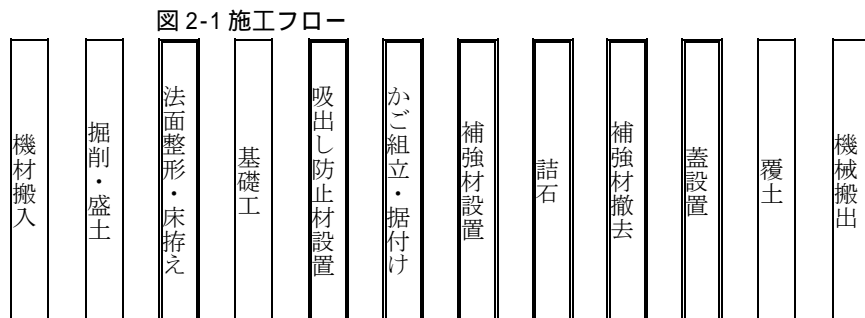
12) かごマット工

1. 適用範囲

本資料は、一般部又は曲線部の鉄線かごを使用した護岸で中詰用石材が、栗石、割栗石で石径がかご厚さ 30cm の場合概ね 5～15cm、かご厚さ 50cm の場合概ね 15～20cm の法勾配 1：2.0 以上の施工に適用する。また、粗面のカゴ蓋を使用する場合にも適用する。なお、多段積には適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 かごマット設置【SPK13040035】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 かごマット設置 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

かご厚さ	かご本体材質	詰石種類	詰石規格
t=30cm	亜鉛アルミメッキ	栗石	5～15cm
			各種
		割栗石	5～15cm
			各種
	各種	栗石	5～15cm
		割栗石	5～15cm
t=50cm	亜鉛アルミメッキ	栗石	各種
			15～20cm
		割栗石	各種
			15～20cm
	各種	栗石	各種
		割栗石	15～20cm

- (注) 1. 上表は、かごマットの設置、詰石、吸出し防止材設置、補強材設置、法面整形・床拵えの他、補強材（単管パイプ、鉄筋等）、消耗材料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 20m 程度の現場内小運搬を含む。
 3. 吸出し防止材は厚さ 10mm を標準とする。
 4. 中詰用石材、吸出し防止材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 かごマット設置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K2		
	K3		
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊運転手	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	かごマット t=30cm めっき鉄線	かご厚さが t=30cm の場合
		かごマット t=50cm めっき鉄線	かご厚さが t=50cm の場合
	Z2	割栗石 50-150mm	かご厚さが t=30cm の場合
		割栗石 150-200mm	かご厚さが t=50cm の場合
	Z3	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	
Z4	軽油 1.2号パトロール給油		
市場単価	S		

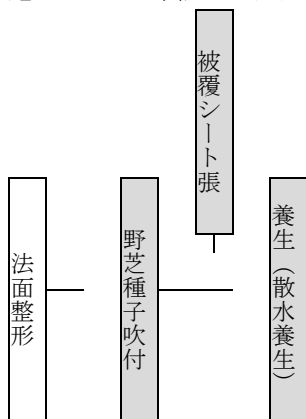
13) 野芝種子吹付工

1. 適用範囲

本資料は、河川工事（堤防，高水敷，低水部法面及びこれに準ずる箇所）の法面保護工のうち種子吹付機を使用して野芝種子，肥料，養生材等を同時に吹付け，必要に応じて長繊維不織布，ポリエチレンフィルム等で被覆する作業に適用する。

2. 施工概要

施工フローは下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは，着色部分のみである。

3. 機種を選定

機種・規格は次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機械名	規格	摘要
種子吹付機	(車載式，種子専用) 2.5m3	
トラック	4.0～4.5t 積	吹付機搭載用
揚水ポンプ	小型渦巻ポンプ，可搬自吸式口径 50mm	

4. 施工歩掛

(1) 野芝種子吹付工

野芝種子吹付工歩掛は，下表を標準とする。

表 4.1 野芝種子吹付工歩掛

(100m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.07	
法面工		〃	0.15	
普通作業員		〃	0.15	
種子吹付機運転	(車載式，種子専用) 2.5m3	h	0.50	
トラック運転	4.0～4.5t 積	〃	0.50	
諸雑費		%	1	

(注) 1. 本歩掛には，施工前の法面の清掃及び補修，吹付後の散水養生を含まない。

2. 吹付機の運転は，法面工が行うものとし，本歩掛に含む。

3. 諸雑費は，小型うず巻ポンプの機械経費であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた額を上限として計上する。

(2) 被覆シート張工

被覆シート張工は、種子吹付施工後、風による種子の飛散や降雨等によるエロージョン等を防止するため、長繊維不織布、ポリエチレンフィルム等を被覆する作業で必要に応じて計上するものとし施工歩掛は次表とする。なお、被覆シートの撤去が必要な場合は別途計上とする。

表 4.2 被覆シート張工歩掛

(100m² 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.07	
法面工		〃	0.22	
普通作業員		〃	0.22	

(3) 材料の使用量

吹付材料及び被覆シートの使用量は、次表による。

$$W = m \times (1 + K)$$

W : 1m² 当りの使用量 (kg/m² 又は m²/m²)

m : 1m² 当りの設計量 (kg/m² 又は m²/m²)

K : ロス率 (表 4.3)

表 4.3 ロス率 (K)

名称	吹付材料	被覆シート
ロス率	0.20	0.25

吹付材料の配合は、次表を標準とする。

表 4.4 吹付材料の配合

(100m² 当り)

吹付材料	配合	吹付材料	配合
種子 (野芝)	2kg	(注) 土壌改良剤	4kg
肥料	10kg	土壌安定剤	0.1kg
養生材	20kg		

(注) 土壌改良剤は、pH 値 4 未満 (H₂O) であるような酸性が強い場合に使用する。

(4) 養生工 (散水養生)

散水養生歩掛は次表とし、回数については必要に応じて計上すること。

表 4.5 種子吹付養生工歩掛

(100m² 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	0.06	1 人/1,600m ² /日
普通作業員		〃	0.06	
渦巻ポンプ運転	50mmE 付	日	0.06	

(注) 乾燥期に施工する場合などに計上する。

5. 単価表

(1) 野芝種子吹付工 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.07	表 4.1
法面工		〃	0.15	〃
普通作業員		〃	0.15	〃
種子(野芝)	発芽促進剤処理済	kg	2.40	表 4.3 表 4.4
肥料	高度化成肥料 N:P:K=15:15:15	〃	12.0	〃
養生材	ファイバー	〃	24.0	〃
土壌改良剤	苦土石灰	〃	4.80	〃
土壌安定剤	アクリル樹脂・酢酸 ビニル系樹脂同等品	〃	0.12	〃
種子吹付機運転	(車載用, 種子専用) 2.5m ³	h	0.5	表 4.1
トラック運転	4.0~4.5t 積	〃	0.5	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 被覆シート張工 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.07	表 4.2
法面工		〃	0.22	〃
普通作業員		〃	0.22	〃
被覆シート		m ²	125	表 4.3
諸雑費		式	1	
計				

(3) 養生工(散水養生) 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	0.06	表 4.5
普通作業員		〃	0.06	〃
小型渦巻ポンプ運転	可搬自吸式口径 50mm	日	0.06	〃
計				

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
種子吹付機	(車載式・種子専用) 2.5m ³	機-13	
トラック	4.0~4.5t 積	機-6	
小型渦巻ポンプ	可搬自吸式口径 50mm	機-12	主燃料(ガソリン) →1.1L/h 運転時間 →6.9h/日

14) 袋詰玉石工

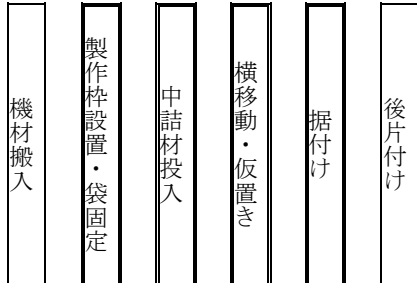
1. 適用範囲

本資料は、袋材（袋規格 2t 用及び 3t 用）に詰石（50mm～300mm 程度の玉石，割栗石，コンクリート殻）したものを現地で製作し，築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。

なお，積み方法は，乱積み及び多段積みとする。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは，二重実線部分のみである。

2. 濁水予防のために洗いを行う場合は，別途計上すること。

3. 施工パッケージ

3-1 袋詰玉石【SPK13040036】

(1) 条件区分

条件区分は，次表を標準とする。

表 3.1 袋詰玉石 積算条件区分一覧

(積算単位：袋)

袋詰玉石用袋材規格	中詰材区分
2t 用	購入材
	流用又は採取材
3t 用	購入材
	流用又は採取材

(注) 1. 上表は，袋詰玉石の製作枠設置・袋固定，中詰材料・投入作業，横移動・仮置き，据付けの他，製作枠，連結ロープ等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 流用又は採取材の採取費用は含まない。

3. 横移動・仮置きは，1 スイングまで含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 袋詰玉石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型]25t 吊	賃料
	K2	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊運転手	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	袋詰玉石用袋材 2t 用(長期性能型)	袋詰玉石用袋材規格が 2t 用の場合
		袋詰根固用袋材 3t 用 補強ロープ無(黒)	袋詰玉石用袋材規格が 3t 用の場合
	Z2	軽油 1.2 号パトロール給油	
	Z3	中詰材 割栗石 150-200mm	中詰材を購入する場合
	Z4	-	
市場単価	S	-	

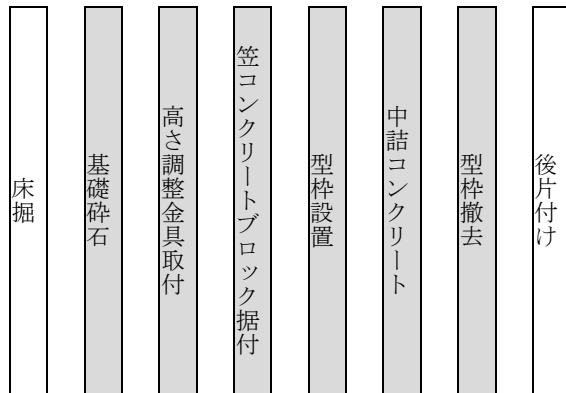
15) 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用範囲

本資料は、矢板護岸工に使用する 1.1t 未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 2. 型枠設置・撤去は、必要に応じて計上する。

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 2. 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

4. 施工歩掛

4-1 据付歩掛

笠コンクリートブロック据付歩掛は、次表とする。

表 4.1 据付歩掛 (100m 当り)

名称	単位	型枠なし	型枠あり
世話役	人	3.4	4.8
特殊作業員	〃	2.2	2.2
普通作業員	〃	13.7	20.2
型枠工	〃	—	1.5
ラフテレーンクレーン運転	日	4.0	4.0
諸雑费率	%	21	29

- (注) 1. 上表の労務歩掛は、高さ調整金具取付、ブロック連結、中詰コンクリート打設（型枠が必要な場合は、型枠設置・撤去）、養生等の労務を含む。
 2. 本歩掛の中詰コンクリートの養生は、一般養生を見込んでおり、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 本歩掛は、運搬距離 30m までの現場内小運搬を含んでいるが、これにより難しい場合は別途考慮する。
 4. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 5. 諸雑費は、労務費、機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、諸雑費に含まれる内容は次のとおりである。

[諸雑費]

基礎碎石の敷設・転圧労務、基礎碎石の材料投入労務・締固め機械運転経費、電力に関する経費、型枠持上（下）機械経費、パイプレータ・コンクリートバケット・電気ノコギリ・電気溶接機等損料、碎石・調整金具・連結金具・目地材・溶接棒・型枠材・剥離材等の材料費

6. 諸雑费率は、基礎碎石の有無によらず適用出来る。ただし、敷均し厚は、10cm 以下を標準とする。
 7. 諸雑費の基礎碎石は、材料の種別・規格を問わない。

4-2 材料の使用量

中詰コンクリートの使用量は、次式による。

使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1+K) …式 4.2

K：補正係数

表 4.2 補正係数 (K)

種別	補正係数
コンクリート	+0.04

5. 単価表

(1) 笠コンクリートブロック据付工 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
型枠工		〃		〃 必要により計上
コンクリート		m3		式 4.2/100m
笠コンクリートブロック		個		100m ÷ ○○m/個
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4.1
諸雑費		式	1	〃
計				